

## 第2学年3組 保健体育科学習指導案

日 時：令和5年11月14日（火）第2限

指導者：教諭・T1

場 所：2年3組教室

### 1 単元名 健康な生活と疾病の予防（がんの予防）

#### 2 単元の目標

- (1) 健康な生活と生活習慣病などの予防について、理解することができるようにする。 【知識】
- (2) 生活習慣病などの予防に関わる事象や情報から自他の課題を発見し、生活習慣病のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりする視点から解決方法を考え、適切な方法を選択するとともに、それらを伝え合うことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 生活習慣病などの予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。 【学びに向かう力・人間性等】

#### 3 指導に当たって

##### (1) 教材観

本単元は、生活習慣病などの原因と、その予防法について取り扱う単元である。日本人の死因の上位を占めるがん、心臓病、脳卒中など、多くの疾病の発症には、生活習慣が大きく関わっている。生活習慣は若いころからの積み重ねであり、また、近年、生活習慣病に罹患する未成年の予防を理解することは肝要であると考えられる。がんが身近な病気であることや、がん予防、早期発見・検診等について関心を持ち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成したり、がんを通じて様々な病気についても理解を深めたり、健康の保持増進の意識を高める上で適した教材である。

##### (2) 生徒観

2年3組の生徒は、真面目な生徒が多く、グループでの活動や、話し合いの活動に積極的である。また、ワークシートに自分の意見をしっかりと書ける生徒が多く見られる。一方で、発表となると、自信をもって発表できない生徒も多く存在している。

##### (3) 指導観

国民の2人に1人が、がん罹患する時代である。その一方で、がん検診の受診率の低さやがんに対する関心の低さや誤った認識も指摘されており、がんに関する基本的な知識を身に付けるとともに、がんについて学ぶことを通して命の大切さや自己の生き方について考えることは健康に関する基礎的素養として必要である。前時の授業までに、がんは身近な病気であることを理解させ、がんの予防法について関心を持ち、正しい知識をもとに適切な行動ができる力を身に付けさせたい。更に本時では、病院の医師であるゲストティーチャーの話を聞くなかで、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、がん患者と共に生きる社会づくりについて考えさせたい。

#### 4 単元の指導・評価計画（総時数4時間）

次	小単元（題目等）名 及び目標	主な学習活動	評価規準	評価の観点		
				知	思	主
一	生活習慣病の起こり方について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな生活習慣病とその主な原因について知る。</li> <li>・自己の生活を振り返って生活習慣について考える。</li> </ul>	生活習慣病は、生活習慣が主な要因となって起こることを理解し、言ったり、書いたりしている。	○		

		・がんについてのアンケートを実施			
二	生活習慣病の予防について考える。	・生活習慣病の予防に必要なことについて知る。 ・健康的な生活と生活習慣病などの予防について、他者と話し合う。	生活習慣病の予防について、疾病等のリスクを軽減し健康を保持増進する方法を考え、その理由などを、他者と話し合い、筋道を立てて伝え合っている。		○
三	がんについて知る。	・がんの発生のメカニズムや要因について知る。 ・自分でできるがんの予防を考え、グループで共有する。 ・がん患者と共に生きる社会について考える。	がんの予防について、学習した知識を活用したりして、健康の保持増進をする方法を選択している。		○
四	医師とともに共生について考える。	・前時にまとめた他のグループの意見を共有する。 ・医師の話に基づき、がん（がん患者）とともに生きる社会について考える。	がんと向き合う人の考えに触れ、自他の健康と命の大切さに気づき、自己の生き方について考え、共に生きる社会をつくらうとしている。		○

※授業後に一次でとったアンケートを再度とり、変容を見る。

5 本時の学習（第次四時）

(1) 小単元名 がんの予防

(2) 本時のねらい

生活習慣病などの予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に積極的に取り組もうとすることができるようにする。 【学びに向かう力・人間性等】

(3) 準備・資料等

大型テレビ ワークシート タブレット端末

(4) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点，方法等）
8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返り</li> <li>・医師の紹介</li> </ul> 本時の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項に触れ、本時の繋がりを意識させる。</li> <li>○前時に、がん検診の年齢を下げたり、費用が安くなったりすればいいという意見が出たことにも触れる。</li> <li>○医師の先生の紹介で本時の学びの大切さを理解させる。</li> </ul>	
様々な考えに触れ、共生していく社会に向けて、自他の健康のために、考えを深めよう。			
35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時にまとめたグループの意見を交換し、見合う</li> <li>・医師による講話（検診の必要性、共生の視点など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他のグループの意見に触れてみる。自分のグループに無かった内容をワークシートにメモできるように促す。</li> <li>○共感できる内容も可とする。</li> <li>○今までに無かった価値観や、先生の話を受けて、自分で考えたことをまとめさせる。</li> </ul>	がんと向き合う人の考えに触れ、自他の健康と命の大切さに気づき、自己の生き方について考え、共に生きる社会をつくらうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 （観察・ワークシート）

7 分	本時のまとめ ・学級内で発表	○将来、自分や自分の家族ががんと診断されたらどうする？  ○ペアで自分の考えを共有し、違う意見が出たペアに発表させる。	
	・医師の先生の話聞いて、がんに対する考えが変わった。 ・病気を抱えている方達は、どんな風に接して欲しいと思っているのか考えることができた。 ・ステージの違いや、患者の性格によって感じ方が違うことを再確認できた。 ・誰にでも起こりうる身近な病気だからこそ、周囲の理解が必要だと感じた。 ・自分の家族や身近な人に起こった時に、どうやって向き合っていきたいか考えることができた。		
	振り返り ・各自振り返り用紙に記入		

(5) 板書計画

**学習課題**

様々な考えに触れ、共生していく社会に向けて、自他の健康のために、考えを深めよう。

<ul style="list-style-type: none"> <li>○既習の確認</li> <li>○医師紹介</li> <li>○意見交流</li> <li>○医師講話</li> <li>○個人の考えをもつ</li> <li>○まとめ&amp;振り返り</li> </ul>	<p>意見交換の方法 先生より評価していただいた グループの意見を見合う時間</p> <p>石井先生の講話</p>	<p>☆共生の仕方を考える</p> <p>将来、自分や自分の家族が がんと診断されたら？</p>
---	---	--

**まとめ**

- ・医師の先生の話聞いて、がんに対する考えが変わった。
- ・病気を抱えている方達は、どんな風に接して欲しいと思っているのか考えることができた。
- ・ステージの違いや、患者の性格によって感じ方が違うことを再確認できた。
- ・誰にでも起こりうる身近な病気だからこそ、周囲の理解が必要だと感じた。
- ・自分の家族や身近な人に起こった時に、どうやって向き合っていきたいか考えることができた。など

ワークシート

# 「がん教育」まとめ

11月 日 ( ) 組 名前 \_\_\_\_\_

前時のまとめを共有しよう

他のグループの良い意見や共感できる意見を書き出してみよう (箇条書き OK)

<石井先生講座>メモ

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

☆将来、自分や自分の家族ががんと診断されたら？

自分
家族

まとめ&振り返り